教育のまち豊後高田市

教育ビジョン 2023

豊後高田市教育振興基本計画

夢を描き、実現できる子どもの育成

～子どもたちが自分の好きなことをより好きに～

タブレット等 ICT 機器活用した個別最適な学び

豊後高田市教育委員会

はじめに

豊後高田市では、平成２８年３月に策定した**第２次豊後高田市総合計画**（平成２８年度～令和７年度）を令和２年３月に改定しました。

これは計画の後期にあたる５年間の方針として、計画策定時に掲げたまちの将来像「千年のロマンと自然が奏でる交流と文化のまち」や「まちづくりの４つの基本目標」は基本としつつ、人口減少問題の克服と新たな時代の変化に対応するための改定です。

令和２年度からの新たな地方版総合戦略は、「地域の活力は人である」との考えを市政推進の基本に据え、このまちに確かな未来を創るために重点戦略プロジェクトとして推進していきます。

これらの計画を着実に進め、「子育てのまち」、「教育のまち」、「昭和の町」、「健康のまち」、「スポーツのまち」として、市民の方々が誇りに思えるような豊後高田市の実現に向け、取り組んでいきます。

大目標として「このまちに確かな未来を～地域の活力は『人』」を掲げ、学校教育については、**「夢を描き実現できる子どもの育成」**を目標として、教育を進めます。

今やＩＣＴの急速な発達やグローバル社会の一層の進展など、子どもたちを取り巻く環境は、大きく変化しています。このような時代の変化に対応し、本市の未来を切り拓く力と意欲を備え、「知・徳・体」の調和の取れた子どもの育成を図ります。

その実現のために、これまでの「教育のまちづくり」を基盤とし、本市の豊かな自然・歴史文化に誇りを持ち、「夢を描き実現できる“ぶんごたかだっ子”」の育成を目指し、教育環境の充実を図ります。

新型コロナウイルスは今年度５月より感染法上「5類」に移行されました。「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に沿い教育活動をつくっていきます。

施策方針

⑴知・徳・体を総合的に育む学校教育の推進

・「教育のまち豊後高田」として、知・徳・体を総合的に育む教育内容の創造、校種間連携による連続性のある指導支援、主体的な学びを提供する「学びの２１世紀塾」の取組みを実施し、基礎的基本的な知識及び技能の確実な習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力の育成を図ります。

⑵Society5.0（ソサエティ5.0）の社会を生き抜く力の育成

・幼・小・中学校を通しての読解力・英語力の継続的な向上、ICT を活用した学習活動をもとにしての情報活用能力の育成、プログラミング教育等を通した論理的思考力の育成、郷土への深い理解を図る学習等を推進し、急速なグローバル化の進展、Society5.0 の時代を生き抜く力をもった子どもを育成していきます。

⑶地域力を活かした安心安全な学校づくりの推進

・幼稚園・小学校、中学校全校で、コミュニティースクール制度を継続し、学校運営協議会での熟議のもと、教育課題に関する組織的な取組みを進め、地域力を活かした学校づくりを行います。

・学校支援地域本部や「学びの２１世紀塾」の効果的活用など、学校と地域の取組みが相乗効果を上げられるよう施策の展開を図ります。

⑷「協育」ネットワークを活用した学び合いの推進

・子どもが学ぶ場を学校だけに限るのではなく、地域住民の参画と協働のもと多様な体験や学習の場を提供し、子どもの学びを総合的に応援していきます。

１．子どもたちの意欲を伸ばす学校教育の推進

グローバル化や人口知能・ＡＩなどの技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの時代には、子どもたちには自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力（「生きる力」）が求められます。

学校での学びを通じ、子どもたちの「生きる力」を育むために、令和２年度、小学校の学習指導要領が１０年ぶりに改訂され、令和３年度には中学校も実施されました。

小学校中学年から「外国語教育」を導入、小学校における「プログラミング教育」を必修化するなど社会の変化を見据えた新たな学びが始まっています。

新しい学習指導要領では、教育課程全体や各教科などの学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の３つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育んでいくことを目指しています。

そして、その内容として「言語能力の育成」「外国語教育」「道徳教育」等があげられています。また、上記の資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を重要視しています。

そこで、豊後高田市では、上記の内容を再編成し、「授業改善」をはじめとして６つの重点事項を定め、子どもたちの資質・能力を育成します。

夢を描き、実現できる子どもの育成
～子どもたちが自分の好きなことをより好きに～

⑴授業改善

基礎基本の定着を図るとともに、学力向上における取組テーマを「児童生徒が思考・判断・表現できる授業の創造」とし、学習活動が主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）につながり、自己教育力や必要な資質･能力を育むために、スパイラルに校内研究や日々の授業改善を進めます。

具体的取組

①個別最適な学びと協働的な学びを実現する協調学習・仮説検証型授業研究の推進
②新大分スタンダードを意識した単元構想による主体的･対話的で深い学びの実現
③「社会・地域に開かれた教育課程」を実現するカリキュラム・マネジメントの質的向上

⑵体力向上、健康･安全教育

体育･保健の授業を基本として、学校生活の中で、健康･安全に配慮した教育活動を進め、体力向上、健康･安全教育を推進します。とりわけ、学級指導や保健教育、フッ化物洗口を推進して、自分自身の健康づくりに努め、校内・校外で安心して生活できる生活習慣づくりをめざします。また、感染症に対しては、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に沿うとともに、学校医と連携し、感染防止を図ります。

具体的取組

①授業改善を基軸とした運動の習慣化・日常化の推進及び
「一校一実践」の短期検証・改善
②食育・生活習慣の改善・フッ化物洗口・「からだづくり」の推進
③日常的な危機管理の徹底と家庭や地域と連携した防災･防犯体制の強化

⑶いじめ･不登校対策

いじめ・不登校の未然防止のために学校における組織的な取組を推進するとともに、子ども同士や子どもと教師間の人間関係づくりを推進します。

また、ＳＣやＳＳＷ等との連携を強化し、「チーム学校」として、子どもが抱える多様化・複雑化する課題解決を図ります。

具体的取組

①居場所や絆がある学校・学級づくり実現に向けた、「人間関係づくりプログラム」・「SOSの出し方教育」・「生命の安全教育」の推進

②いじめ・不登校に係る校内対策委員会等の体制強化と報告･連絡･相談の徹底

③ＳＣ・ＳＳＷ・ＳＬ等の専門スタッフ・関係機関との連携によるいじめ・不登校・貧困対策等への組織的な支援の充実

⑷豊かな心

各校においては、道徳教育の重点目標を明確にして、「考え議論する」道徳の授業を実施するとともに、意図的・系統的な人権教育を推進し、自他の人権を尊重する豊かな心の育成に努めます。また、学校行事や総合的な学習の時間における目的と身に付けさせたい力を明確にし、子どもたちの主体的な活動につながるように計画的に実施します。

具体的取組

①重点目標を明確にした道徳教育の充実と「考え、議論する道徳授業」への改善

②「差別の現実から深く学ぶ」人権・部落差別解消教育の推進

③豊かな人間性や社会性を育む地域人材を活用した体験活動の推進

⑸特別支援教育

地域の児童生徒が障がいの有無にかかわらず、ともに学ぶ共生社会の実現に向け、全教職員の専門性の向上を図り、合理的配慮により誰もが学びやすい環境を整備するとともに、関係機関との連携を強化し、一人ひとりのニーズに応じた教育を行います。

また、早期からの就学支援を実施し、切れ目のない支援を推進します。

具体的取組

①子どもの自立と社会参加を見据えた個々の学びの連続性の実現

②発達特性等を踏まえた学級経営力・授業構成力の向上

③個々の発達特性を見抜く力と対応する組織力の向上

⑹幼児教育

人とかかわる力、思考力、感性、表現する力など生きる力の基礎を培うために、仲間との遊びや生活の中で、発達に必要な直接的・具体的な体験が得られるよう新しい幼稚園教育要領を踏まえて、意図的・計画的な教育を行います。

また、保育園・幼稚園・小学校の連携を充実させ、架け橋期の教育を推進します。

具体的取組

①「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」の展開と指導の工夫改善

②幼保小の「架け橋プログラム」に基づいたカリキュラムの作成の推進

③幼児期から「英語」に親しむ活動の推進

２．地域を担う人づくりと活力ある地域づくりの推進

⑴教育のまちづくり

「教育のまち」として、平成１４年から始まった「学びの２１世紀塾」事業を充実します。昨年度からは「高校生のための学びの２１世紀塾」を設立し幼児期から高校生までが切れ目なく学べる機会を実現させました。今後もすべての子どもたちに「学びの２１世紀塾」による学習支援を行うことを通して、「夢を描き、実現できる子ども」を育成するとともに、教職員の資質向上に必要な研修機会を提供します。

具体的取組

①主体的な学びを育む「学びの21世紀塾」の効果的な活用
②「学びの21世紀塾『うみね』」を基盤とした幼小中高の学びの連続性
③「目標をもって生きる意欲や態度」を育成し未来を描くキャリア教育の推進

⑵Society5.0対応人材育成

近年、ＩＣＴなどの技術革新は目覚しく、10年後にはＩｏＴや人口知能などの先端技術が高度化して生活の場に取り入れられ、社会や生活が劇的に変わる超スマート社会(Society5.0)の到来が予想されています。

そこで、幼・小・中を通じた読解力、対話力、英語力の継続的な向上、ＩＣＴを活用した学習活動を通じた情報活用能力の育成、プログラミング教育等を通じた、論理的思考力の育成、郷土への深い理解を図る学習に取り組みます。そして、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見解決や社会的な価値の創造に結び付けていくSTEAM教育を推進していきます。

具体的取組

①個別最適化された学びによる、自ら考え抜く自立した学習者の育成
②SDGsなど現代的諸課題の解決に向かう思考力･創造力を育成する教育やSTEAM教育の推進
③「暗記のすすめ学」の活用

⑶学校、家庭、地域の連携強化

全ての小中学校に設置されている学校運営協議会の活動を深化・充実させることにより、地域教育力を向上させていきます。そして、校長・園長のリーダーシップのもとさらに地域に開かれた学校・園づくりを推進します。

具体的取組

①子どもたちの文化芸術･スポーツ環境の構築に向けた部活動の
　地域移行の推進
②学校･家庭･地域が目標の達成に向けて協働する
　学校運営協議会の充実
③世界農業遺産や日本遺産等の
　伝統文化教育推進による
　郷土意識の醸成

３．ＧＩＧＡスクール構想の実現

急激に変化する時代の中で、「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協同的な学びの実現」を目指し、子どもたちの知・徳・体を一体で育んできた「日本型学校教育」を発展させた「令和の日本型学校教育」の構築が進められています。「Society 5.0 時代」が到来し、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」である令和の時代は「1 人 1 台端末」や、家庭でも繋がる通信環境の整備など、「GIGA スクール構想」の構築が重要です。

災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICT の活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境の整備と活用が促進されています。個別最適化され創造性を育む教育を実現し、一人ひとりの児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していくことが必要です。

令和２年度には児童生徒向けた１人１台端末を配布しました。子どもたちにとって、PC 端末は鉛筆やノートと並ぶ必需品です。１人１台端末の整備と併せて、統合型校務支援システムをはじめとした ICT の導入・運用を加速していくことで、授業準備や成績処理等の効率化を図り、学校における働き方改革にもつなげていきます。

同時に大事なことは ICT 環境の整備は手段であり目的ではないということです。子どもたちが、ICT を適切・安全に使いこなすことができるように情報活用能力を育成していくことにも重点的に取り組みます。

具体的取組

①個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る1人1台端末の効果的な活用･日常化の推進

②遠隔･オンライン授業やAIドリル等の活用充実と情報モラルやデジタル･シティズンシップの涵養

４．「芯の通った学校組織」の深化･充実と教職員の資質向上

大分県では平成２４年度から、「芯の通った学校組織」の確立による学校改革を進めてきました。この間、学校の組織的課題解決力は着実に向上するとともに、学力・体力ともに全国に誇れる水準まで向上しました。教職員の一人ひとりの弛まぬ努力の成果が、子どもたちの力となって着実に表れてきています。

令和２年度から入った第３ステージは１年延長されました。コロナ禍での運営で得られた経験・知見も踏まえ、将来にわたって持続的・発展的な教育水準向上を進めるものです。

教育活動を組織的・効率的に進め学校のパフォーマンスを最大化するために、目標達成マネジメントと組織マネジメントを両輪とする「芯の通った学校組織」の取組を基盤として、教職員の人材育成や働き方改革を進めつつ、これまで以上に広範かつ積極的なマネジメント力と、見直すべき学校運営体制や取組等をスピード感を持って積極的に進めていきます。

⑴芯の通った学校組織の深化・充実

「芯の通った学校組織」は、校長のリーダーシップにより、ミドルリーダーが組織的、機能的に学校経営に携わり、学校の教育目標を協働的に具現化する取組です。

学校評価・教職員評価の仕組や運営委員会の設置など「芯の通った学校組織」の中核となっている学校マネジメントのツールや考え方を活用して、教育活動を持続的・発展的なものとすることで、子どもたちの力と意欲を伸ばすことができます。

また、いわゆる学校評価の４点セット、即ち、重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標の設定、実施、評価、改善の学校評価を通して、スパイラルに取り組むことによって、学校改善を図ることができます。

そこで、「芯の通った学校組織」の深化･充実を通して、働き方改革を進めるとともに、子どもたちの未来を切り拓く力と意欲の向上が図られるよう、今後も取組を強化します。

具体的取組

①学校長･園長･センター所長のリーダーシップのもと、地域の特色を生かした学校･園･学校支援センターづくりの推進

②「学校マネジメント4つの観点」に基づく「芯の通った学校組織」の更なる深化

③「チームとしての組織」の機能強化と時間管理による「働き方改革」の推進

⑵教職員の資質向上

近年、これまで学校を支えてきた多くのベテラン教職員が退職を迎え、若手教職員の育成、全国的な労働力不足の中での人材確保、そして学校における働き方改革が課題となる中、生徒指導や特別支援教育など複雑化・多様化する様々な課題を解決するためには、教職員や学校内の多様な人材が目標に向かって組織的に取り組むことが不可欠です。

そのため、新たな課題に関し、研修を深め、力量を高めることは最大の方法です。そこで、教職員の日常的な教材研究や指導法の研修、そして校内での研修、教育課程研究会での研修を通して、教職員の資質を向上させ、子どもたちの力の向上を図ります。

具体的取組

①新学習指導要領の趣旨の実現に向けた研修の充実

②ＯＪＴ等を通じた人材育成と市教委主催教職員オンライン講座「まなびの扉」など教職員の自発的な研修推進

子どもたちの未来を切り拓く力と意欲を伸ばし、「夢」を実現していくには、学校・家庭・地域が子どもの状況を把握し、よりよい成長に向けて目標を共有した上で、互いに協力して取り組んでいくことが重要です。

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現が求められており、地域とともにある学校への推進が必要です。

そのためにも、学校運営協議会等を活用して家庭や地域と目標やビジョンを共有し、学校・家庭・地域の役割分担を明確化・適正化しつつ一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」へ深化・充実させていくことが大切です。

そこで、子どものより良い成長に向けて学校・家庭・地域の連携を一層深め、新しい社会を生き抜く子どもたちを育成します。

「暗 記 の す す め 学」

現代の社会において必要とされる、思考力、判断力、表現力等を高める基礎となる資質・能力のひとつに、「暗記すること」「記憶すること」があります。

豊後高田市では、これを「暗記のすすめ学」として教育の根底に位置づける取組をしています

《暗記のすすめ学（考えて、記憶して、発表する）》

豊後高田市には、都甲の「戴星堂」や草地の「涵養舎」をはじめとして、寺子屋がたくさん設立され、庶民教育が行われていました。そこでは、先生の指導のもと「読み、書き、そろばん」、史記、四書五経等の学習が行われていました。教授法は様々ありましたが、「教育は覚えること」が基本でした。

「暗記」とはそのものや文章を見なくても思い出せるように**意味を理解した上**で覚えること、「記憶」とは、経験したこと、学んだことを頭に残しておくことを意味します。

自分の考えを相手に伝えるためには、論理的に分かりやすい表現で考えをまとめ、相手の反応をみながら、間や声のトーン、速さなどを調整しながら言葉を発していくことが必要です。まさに、アクティブ・ラーニングです。これを豊後高田市では、「暗記のすすめ学」としています。

そこで、豊後高田市では、あらゆる発表時に、下記のような指導します。

⑴　人前で話をするときは、自分の言葉で分かりやすくまとめましょう。
⑵　聞いてくださる相手に感謝の気持ちを込めて話すために、原稿を暗記するのは当たり前。さらに、どのようにしたら覚えることができるか考えましょう。
⑶　聞いてくれる相手にどのようにしたら考えを伝えることができるか考えましょう。

発言や発表の機会はたくさんあります。日々の授業、学級会活動、学校行事での発言やあいさつにはじまり、入学式、運動会、学習発表会等の活動、そして、市町村間の交流会、県段階の発表会に至るまで、発言や発表の機会はたくさんあります。それらを絶好の発表の機会、発表の場、考える場として、最大限活用させたいと考えています。

３０年ほど前、豊後高田市の子どもたちは、原稿を読みながらたどたどしい説明や発表をしていました。このような発表では、思いが伝わりません。
その「思いが相手に伝わらない」というもどかしい体験から、
子どもたちは切磋琢磨し、発表力を磨きました。

そして、その積み重ねから、現在のような「考えて、記憶して、発表する」という取組になりました。

今や「暗記のすすめ学」は豊後高田市の特徴になっています。
これからも、豊後高田市の財産として指導し続けたいと考えています。

令和5年度　豊後高田市教育委員会指導指針

夢を描き・実現できる子どもの育成

～子どもたちが自分の好きなことをより好きに～

豊後高田市教育委員会

○「未来の教室」の創造　○個別最適な学びと協働的な学びの一体化　○部落差別解消・いじめの根絶

1．子どもたちの意欲と生き抜く力を育む教育の実現

(1) 授業改善

①個別最適な学びと協働的な学びを実現する協調学習・仮説検証型授業研究の推進
②新大分スタンダードを意識した単元構想による主体的・対話的で深い学びの実現
③「社会・地域に開かれた教育課程」を実現するカリキュラム・マネジメントの質的向上

(2) 体力向上、健康・安全教育

①授業改善を基軸とした運動の習慣化・日常化の推進及び「一校一実践」の短期検証・改善
②食育・生活習慣の改善・フッ化物洗口・「からだづくり」の推進
③日常的な危機管理の徹底と家庭や地域と連携した防災・防犯体制の強化

(3) いじめ・不登校対策

①居場所や絆がある学校・学級づくり実現に向けた、「人間関係づくりプログラム」・「SOS の出し方教育」・「生命の安全教育」の推進
②いじめ・不登校に係る校内対策委員会等の体制強化と報告・連絡・相談の徹底
③SC・SSW・SL等の専門スタッフ・関係機関との連携によるいじめ・不登校・貧困対策等への組織的な支援の充実

(4) 豊かな心

①重点目標を明確にした道徳教育の充実と「考え、議論する道徳授業」への改善
②「差別の現実から深く学ぶ」人権・部落差別解消教育の推進
③豊かな人間性や社会性を育む地域人材を活用した体験活動の推進

(5) 特別支援教育

①子どもの自立と社会参加を見据えた個々の学びの連続性の実現
②発達特性等を踏まえた学級経営力・授業構成力の向上
③個々の発達特性を見抜く力と対応する組織力の向上

(6) 幼児教育

①「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」の展開と指導の工夫改善
②幼保小の「架け橋プログラム」に基づいたカリキュラムの作成の推進
③幼児期から「英語」に親しむ活動の推進

2．地域を担う人づくりと活力ある地域づくりの推進

(1) 教育のまちづくり

①主体的な学びを育む「学びの 21 世紀塾」の更なる展開
②「学びの 21 世紀塾『うみね』」を基盤とした幼小中高の学びの連続性
③「目標をもって生きる意欲や態度」を育成し未来を描くキャリア教育の推進

(2) Society5.0 対応人材育成

①個別最適化された学びによる、自ら考え抜く自立した学習者の育成
②SDGsなど現代的諸課題の解決に向かう思考力・創造力を育成する教育やSTEAM教育の推進
③「暗記のすすめ学」の活用

(3) 学校、家庭、地域の連携強化

①子どもたちの文化芸術・スポーツ環境の構築に向けた部活動の地域移行の推進
②学校・家庭・地域が目標の達成に向けて協働する学校運営協議会の充実
③世界農業遺産や日本遺産等の伝統文化教育推進による郷土意識の醸成

3．ＧＩＧＡスクール構想の実現

①個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る1人1台端末の効果的な活用・日常化の推進
②遠隔・オンライン授業やAIドリル等の活用充実と情報モラルやデジタル・シティズンシップの涵養

4．「芯の通った学校組織」の深化・充実と教職員の資質向上

(1) 芯の通った学校組織の深化・充実

①学校長・園長・センター所長のリーダーシップのもと、地域の特色を生かした学校・園・学校支援センターづくりの推進
②「学校マネジメント4つの観点」に基づく「芯の通った学校組織」の更なる深化
③「チームとしての組織」の機能強化と時間管理による「働き方改革」の推進

(2) 教職員の資質向上

①新学習指導要領の確実な実施に向けた研修の充実
②OJT等を通じた人材育成と市教委主催教職員オンライン講座「まなびの扉」など教職員の自発的な研修推進